

荒川と旧利根川流域の記憶①

＜古代～中世＞

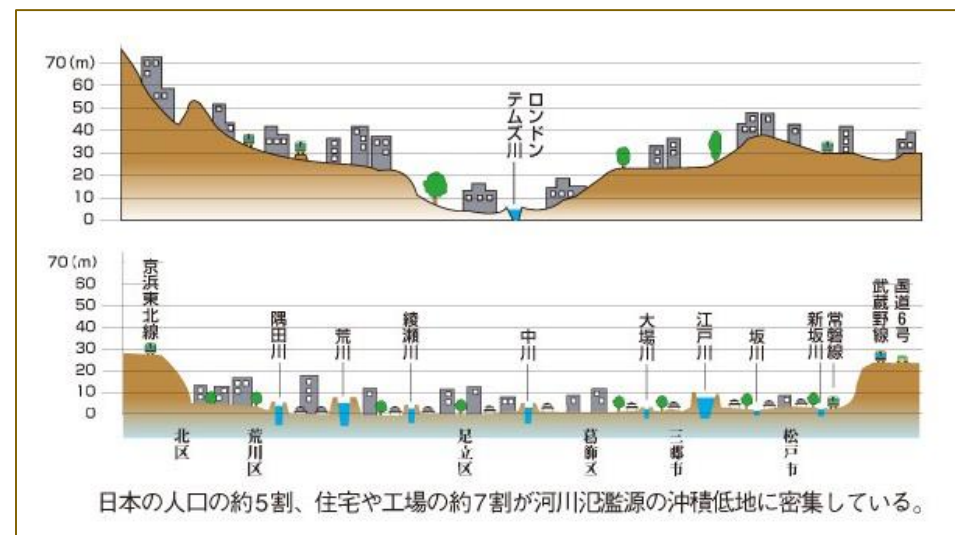


埼玉の大地の骨格

造山運動でできた山地と丘陵（100万年～40万年前）

河川の運搬・堆積・浸食作用でできた洪積台地(10万年前)と沖積低地(6000年前～)

関東造盆地運動でできた加須低地で構成されている。

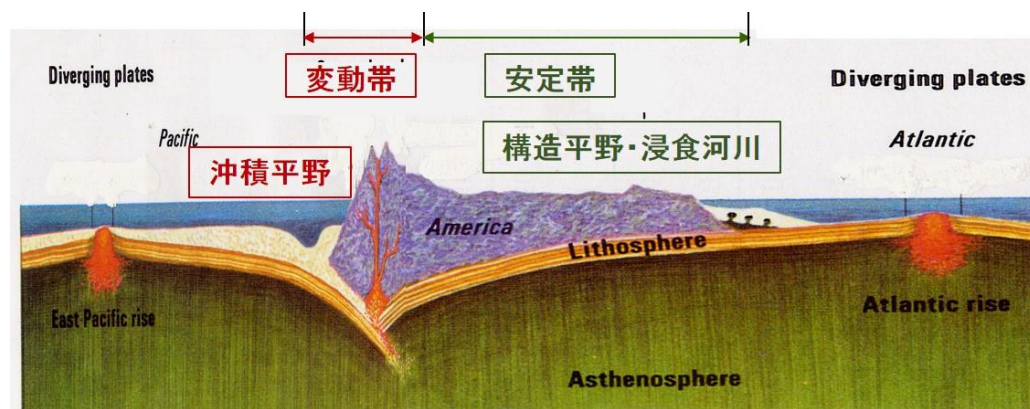


埼玉県は県土の4割が沖積低地。そこは地形区分上最も低い河川の氾濫原

地球を構成する地塊の2大区分

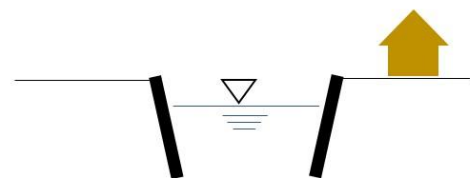
変動(造山)帯：プレート運動で造山活動が活発な地帯

安定帯：古い地質で地震・火山活動がない地帯

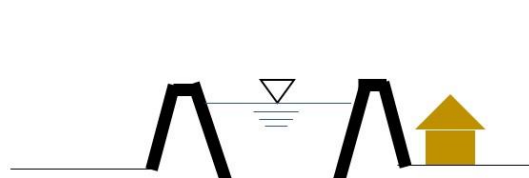


H25さいたま・水とみどりのアカデミー 虫明功臣氏講義図版より

大陸の川・日本の川



掘込型河川(大陸、日本の台地)



築堤型河川(日本の低地)

※変動(造山)帯

プレートテクトニクス理論によると土地・地塊部分は二つに分類される。

大陸プレート上は「**安定帯**」で、主に風化作用で残された土地。「**構造平野**」と言う。安定帯の川は構造平野を侵食してできた水みち(掘込河道・谷)を流れる。

一方、大陸プレートに海洋プレートが海洋プレートが潜り込む所は「**変動帯**」で、地震・火山活動が盛ん。押されて高みができることを「**造山運動**」と言う。

変動帯の平野は、造山運動による脆弱な山地から洪水が流送する土砂が堆積した「**沖積平野**」が主体。土地生産性は肥沃で自然環境も豊かだが、洪水災害が多い。

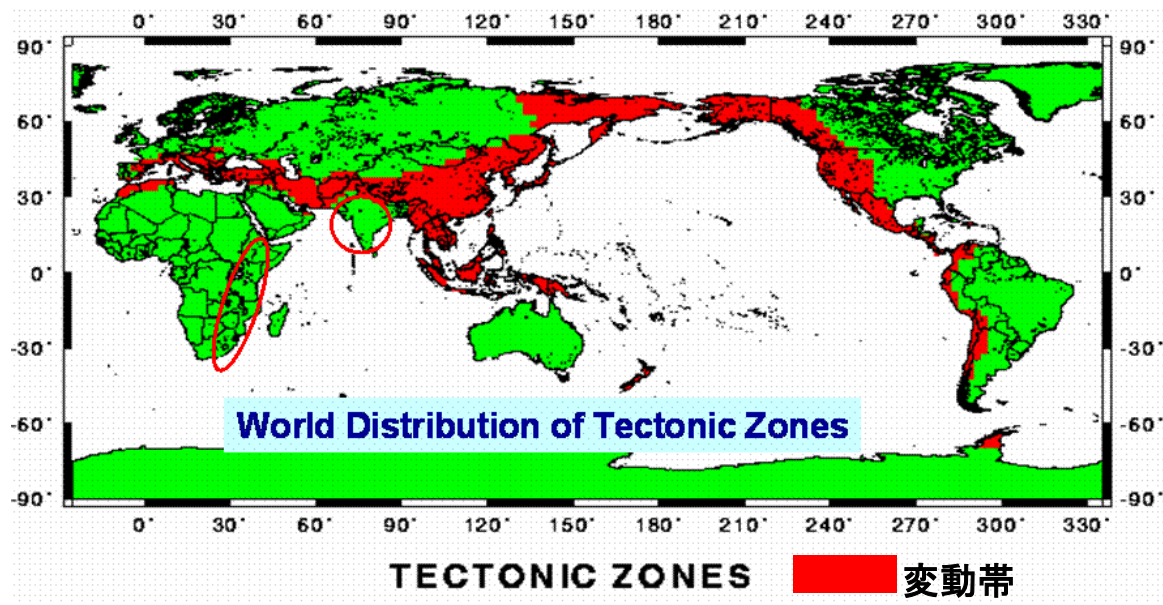
世界の変動帯(造山帯)分布

<2つの造山帯>

アルプス～ヒマラヤ造山帯：アルプス～地中海～中近東～ヒマラヤ～スマトラ～ジャワ

環太平洋造山帯：ニュージーランド～ニューギニア～フィリピン～台湾～**日本列島**～アジア大陸縁辺部～アリューシャン列島～北米大陸西海岸～南米大陸西海岸

※インド半島部、オーストラリア、アフリカ大陸東縁部には比較的高い山脈があり、造山帯と類似の土地条件



<日本の自然条件>

モンスーンアジア変動帯+島国+異常気象

- ①地震・火山活動を伴うプレート運動による地殻変動の激しい「**変動帯**」にある。
- ②アジア特有の季節風(**モンスーン**)がもたらす気象・気候の影響を受ける。
- ③加えて冬も降水量が多く、温帯なのに熱帯並みの高温多湿。
- ④それにさらに最近では、異常気候が加わる。

洪積世—沖積世



洪積世(160万年前～)

200万年前頃、荒川は秩父凹地帯を流下。

100万～40万年前：新生代第三紀後半から続いた造山運動終焉。（関東地方の山河の基本形成）
造山運動最後に外秩父山地が大きく隆起→上武山地との間に出牛(皆野町)-黒谷(秩父市)断層。
平野との境界に断層「八王子構造線」。
→荒川流路北の寄居方面へ向かう。

洪積世末（約10万年前～）

荒川扇状地と洪積台地の形成

約2万年前：地下谷ピーク

(八潮辺り－50m、栗橋付近－30m、川口－30m)

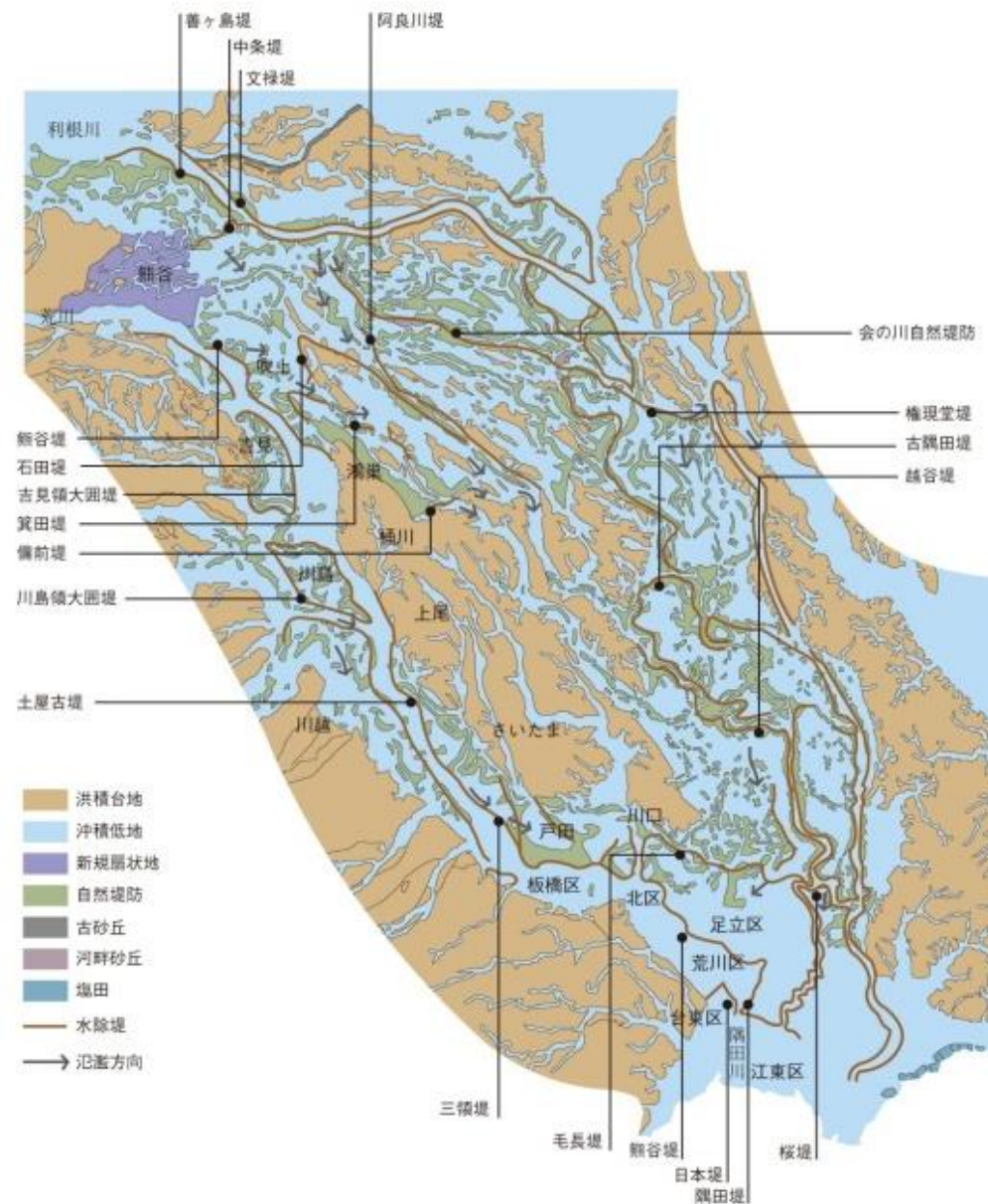
沖積世(1万年前～現在)

荒川新扇状地の形成(大麻生を扇頂に熊谷扇状地)

約7000年前：縄文海進ピーク

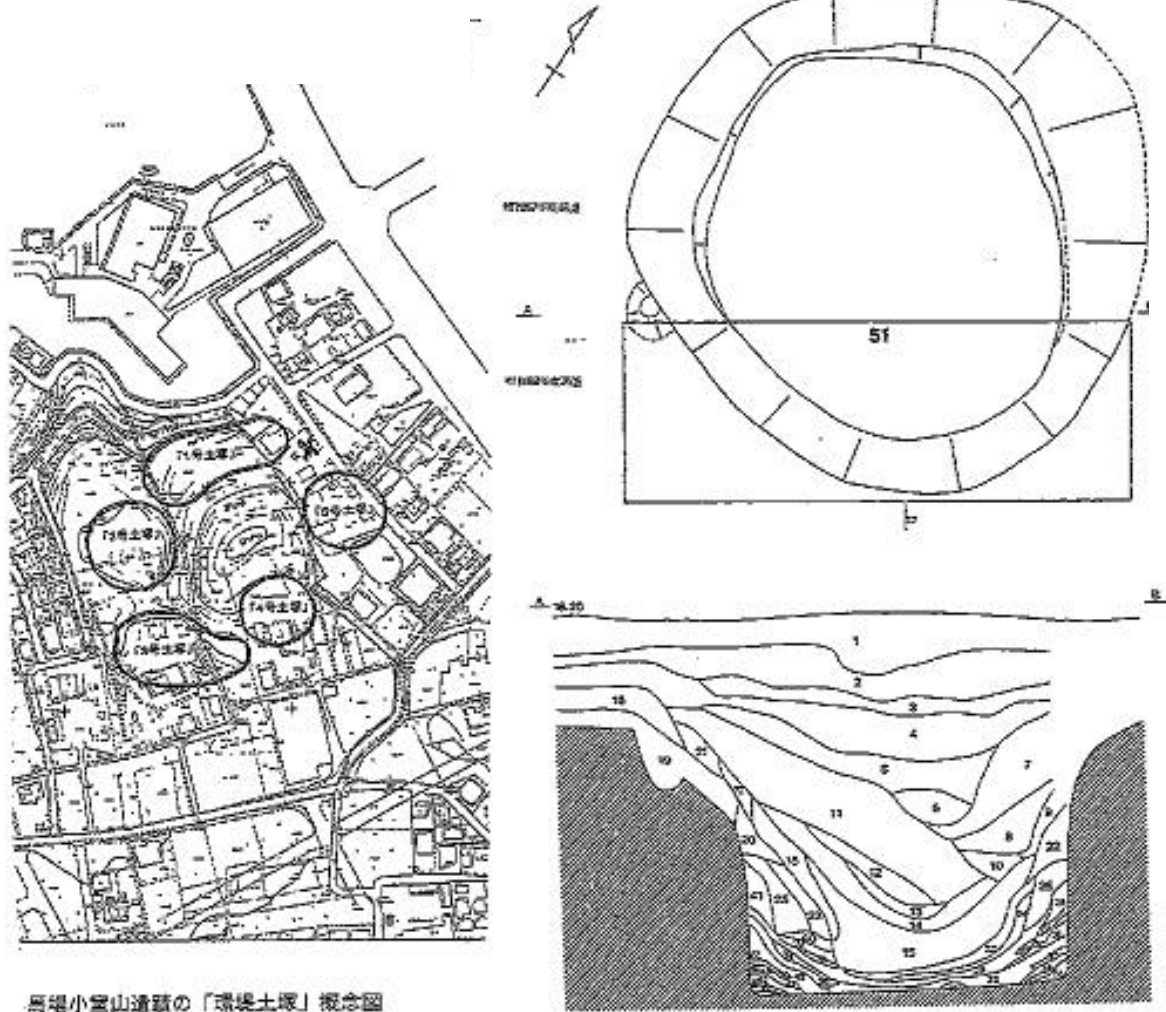
約6000年前：海退・沖積低地の形成

古墳時代以降：約10万年前からの関東造盆地運動による地盤沈降顕在化。(古墳が3m/1000年埋没)→利根川、荒川大宮台地東方へ。



見沼の縄文文化

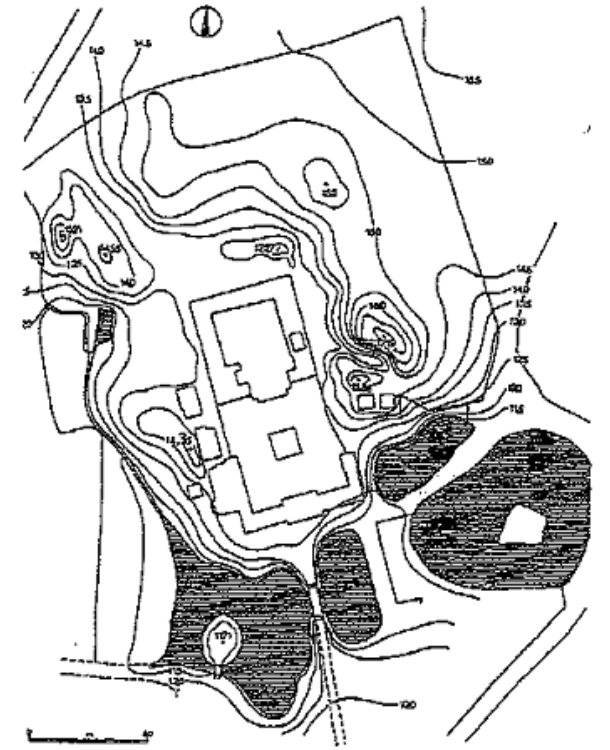
馬場小室山遺跡の「環堤土塚」



馬場小室山遺跡の「環堤土塚」概念図



人面文土器
さいたま市立浦和博物館所蔵

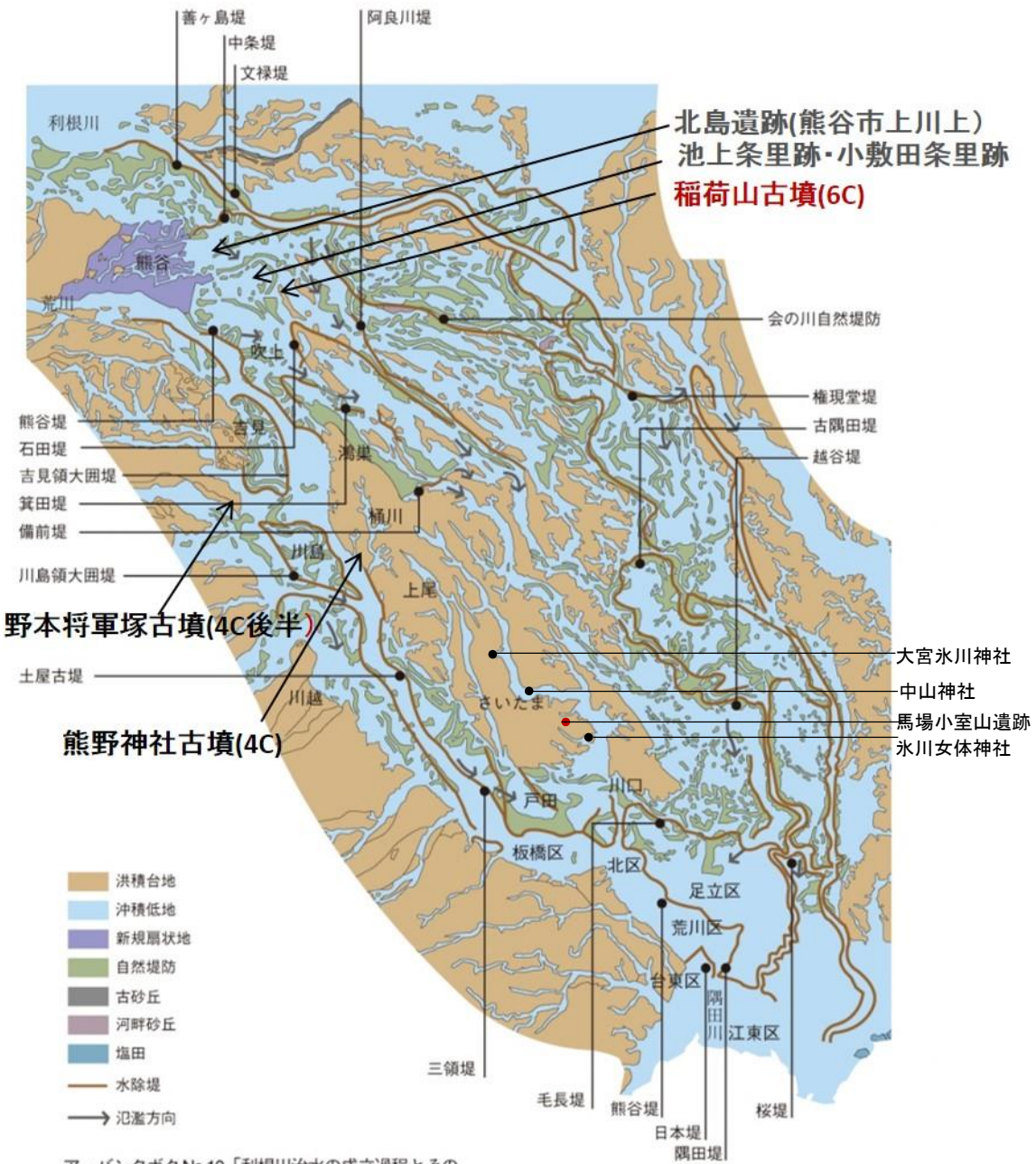


上: 大宮氷川神社遺跡の地形測量図。社殿周囲を土塚が囲んでいる。
出典: 大宮市教育委員会(1994)『氷川神社社叢調査報告』の原図を改変

左: 馬場小室山遺跡の環堤土塚(概念図)
×は人面文土器が出土した第51号土壌。出典: 埼玉県教育委員会(1985)
右上: 馬場小室山遺跡第51号土壌平面図
右下: 馬場小室山遺跡第51号土壌断面図
出典: 浦和市教育委員会(1988)

弥生時代・古墳時代・ 大和王権の頃

稲作、大陸で灌漑・栽培技術を5000年蓄積し、日本に伝来。
東日本は、稲作導入が西日本より300年ほど遅れる。
農耕のムラ、1 C頃減少。2 C以降、急激に低地に拡大。
埼玉では熊谷扇状地扇端(熊谷・行田条里・大里条里等)や
都幾川・越辺川の合流点(野本・坂戸条里等)に弥生水田跡。



アーバンクボタ No.19「利根川治水の成立過程とその特徴」(宮村忠編図、地形は堀口萬吉)を参考に、本

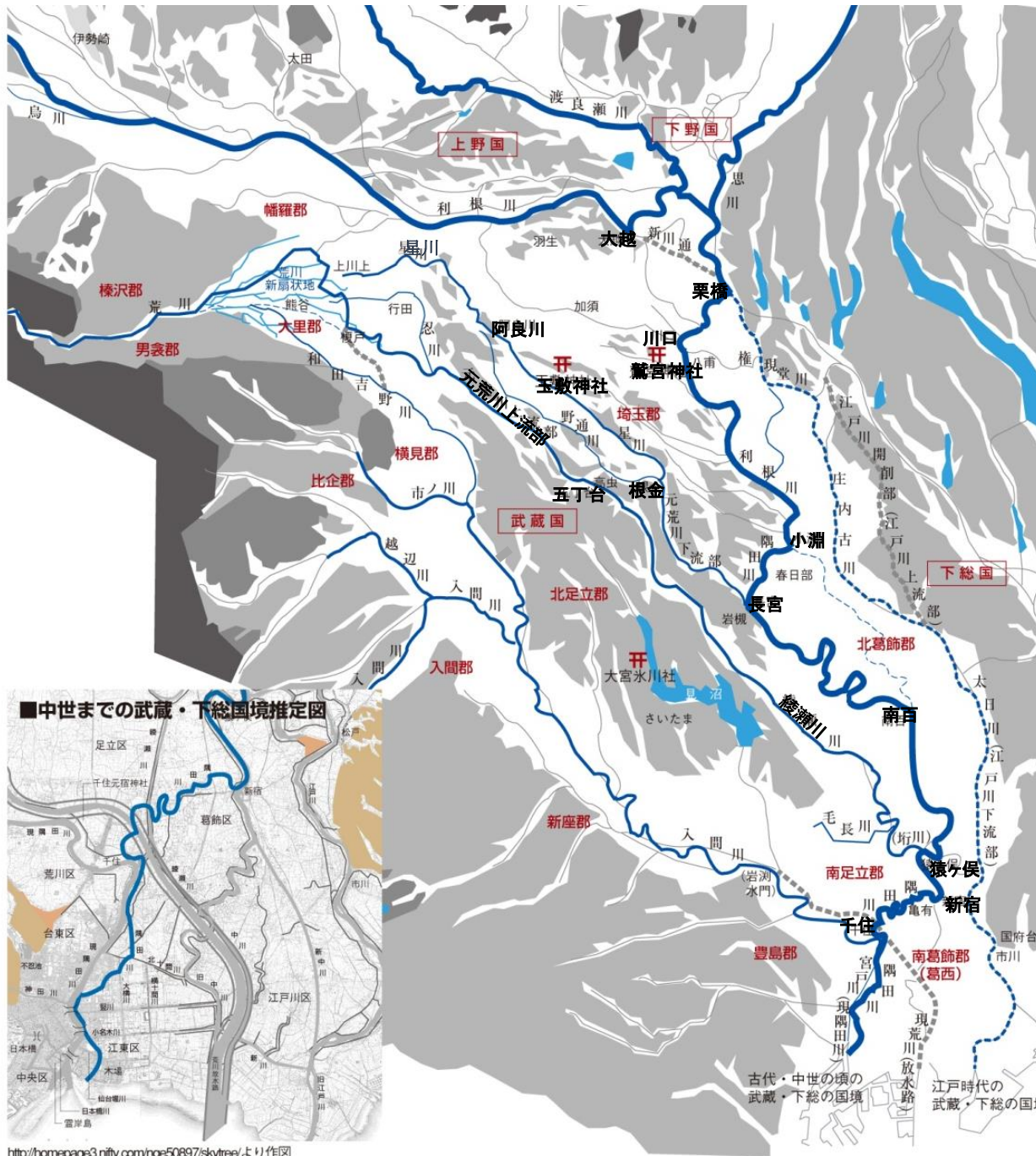


熊谷・行田条里遺跡



701年「大宝律令」制定 国郡里制定の頃

国境：利根川、渡良瀬川、思川
郡境：荒川上流部－綾瀬川
和田吉野川－市ノ川－入間川



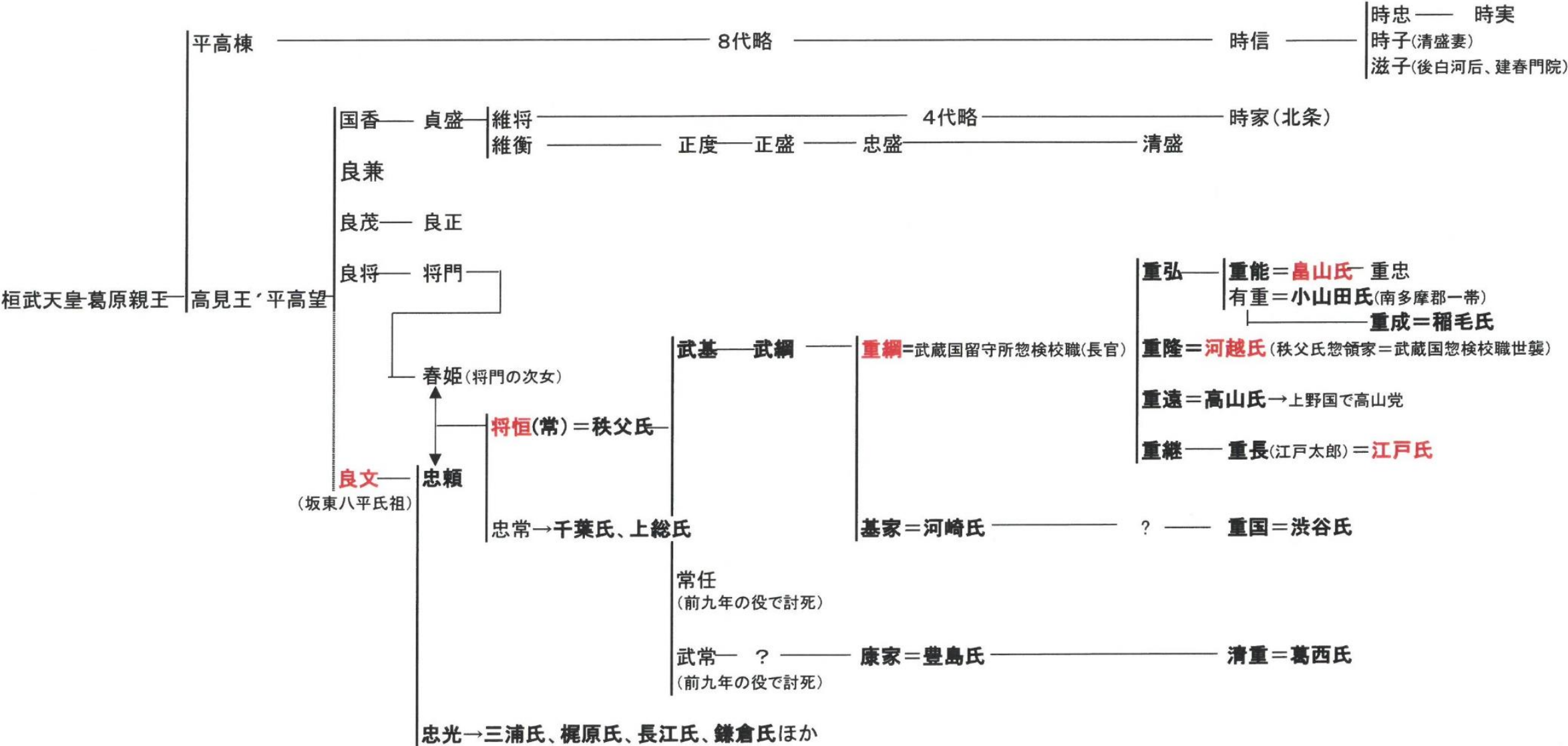
■香取・氷川・久伊豆・鷲宮
各社の分布

出典 人文地理学 398-401 図を参考に作成

- 香取神社
- 大宮氷川神社
- 氷川神社
- 玉敷神社
- 久伊豆神社
- 鷲宮神社本社
- 鷲宮神社

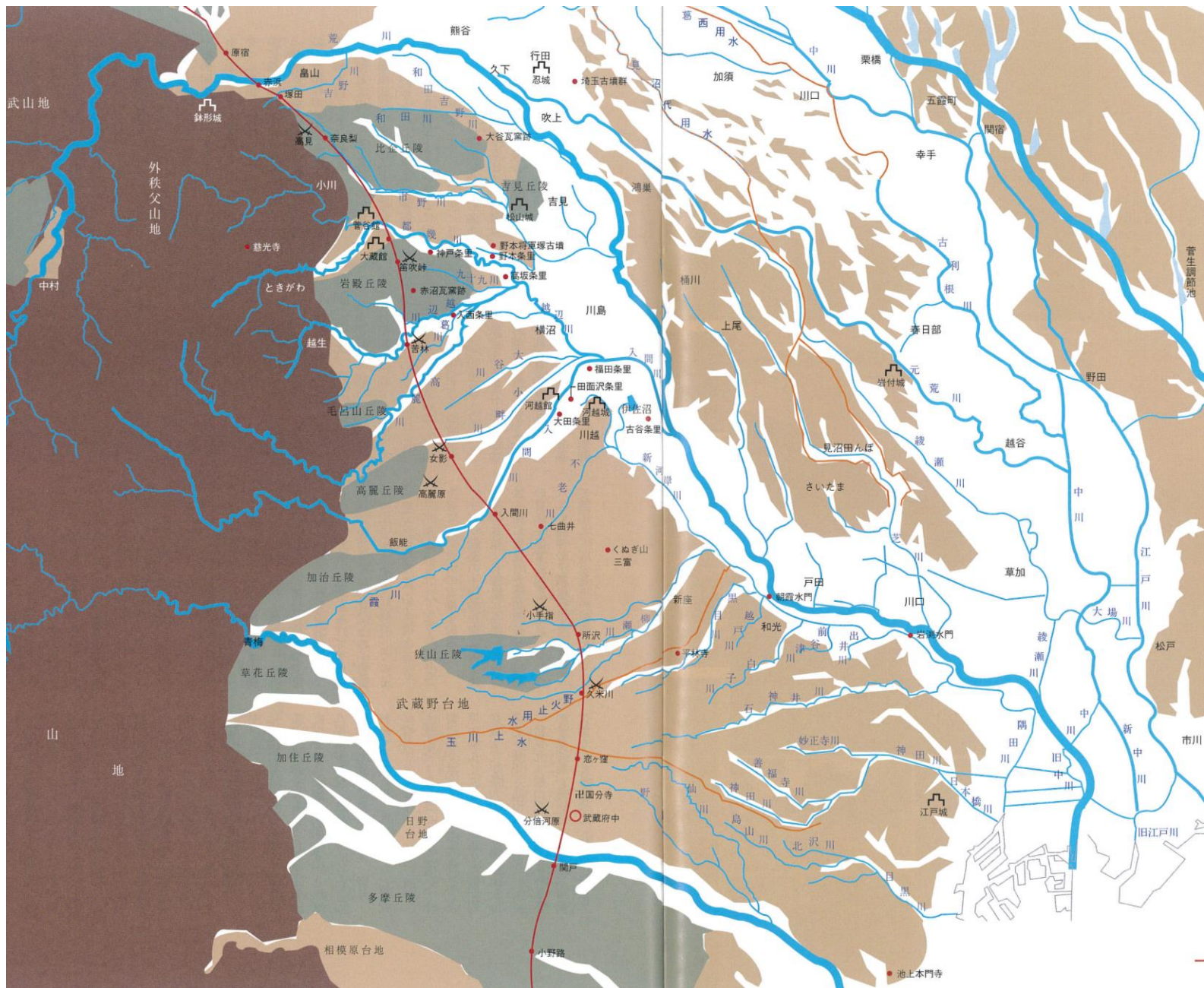


荒川伝いに坂東八平氏流



武蔵国の中心地・河越

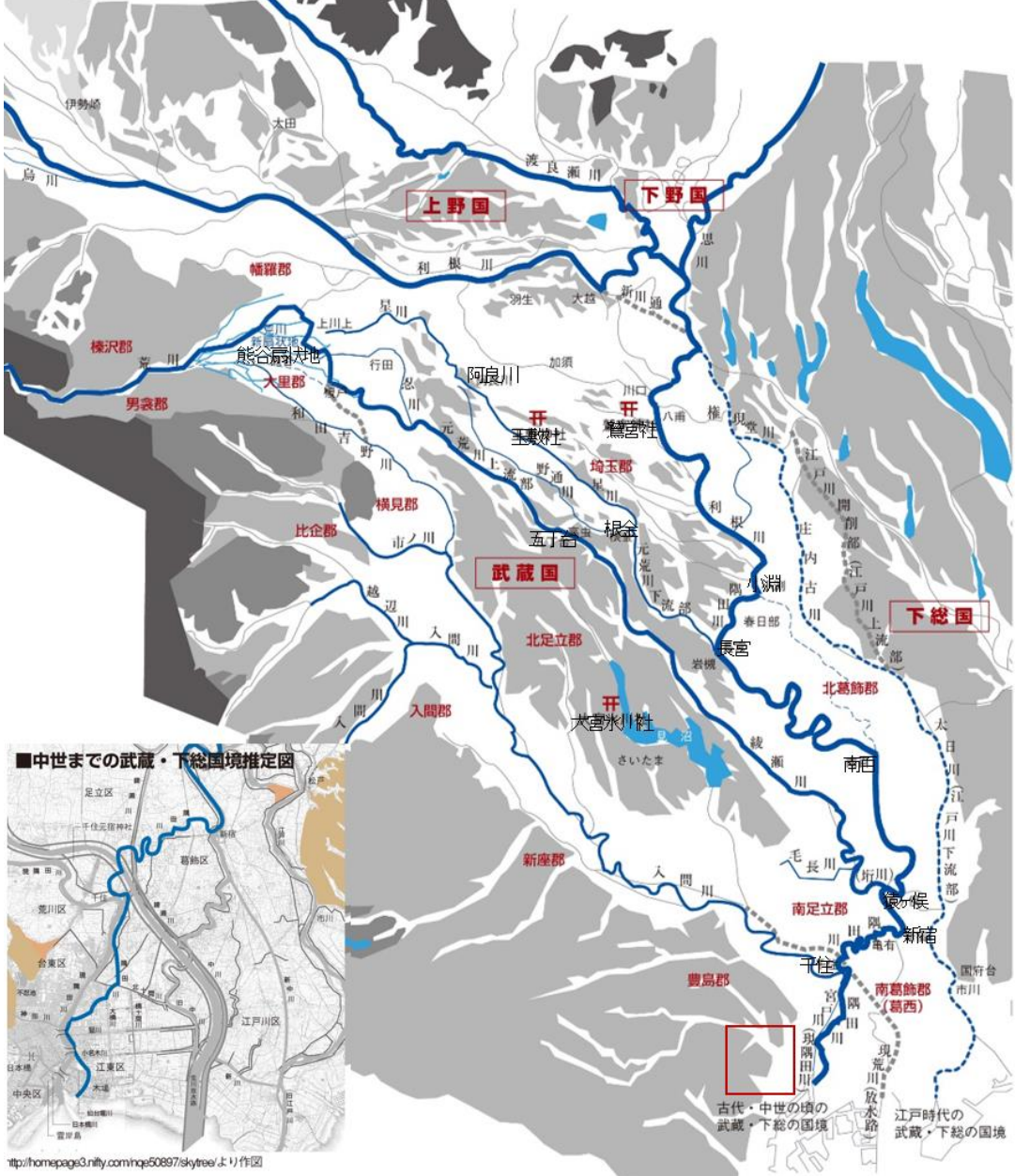
- 12C中頃 秩父重綱の子ら荒川伝いに下り、次男重隆が河越館を拠点に河越を開き、河越氏を名乗り、秩父氏の家督を継ぐ。以来河越氏は秩父党の惣領家として武蔵惣検校職を世襲。
- 1349(承和5) 鎌倉府設置。次第に鎌倉公方の補佐役が強力化(関東管領)。
- 1368(応安元) 「武蔵平一揆」河越氏率いる秩父党諸氏 V s 鎌倉府(鎌倉公方・関東管領) 河越氏滅亡。その後、関東管領職を山内上杉氏が独占し、世襲。
- 1449(宝徳元) 扇谷上杉氏、河越を拠点にする
- 1455(享徳3) 「享徳の乱」鎌倉公方 V s 関東管領 成氏、古河に逃亡し、古河公方と称す。
古河公方 Vs 山内・扇谷両上杉氏 28年に及ぶ大乱。太田道灌の活躍
- 1457(長禄元) 太田道灌、河越城・岩附城・江戸城築城。
- 1467(応仁元) 「応仁の乱」
- 1487(長享元) 「長享の乱」山内上杉氏 V s 扇谷上杉氏 18年に及ぶ内乱。
- 1546(天文15) 「河越夜戦」上杉連合軍 V s 後北条氏 後北条氏が勝利し関東南半を配下に置く。
- 1590(天正18) 「小田原攻め」後北条氏 V s 秀吉 後北条氏が滅亡し、徳川家康、江戸に転封。



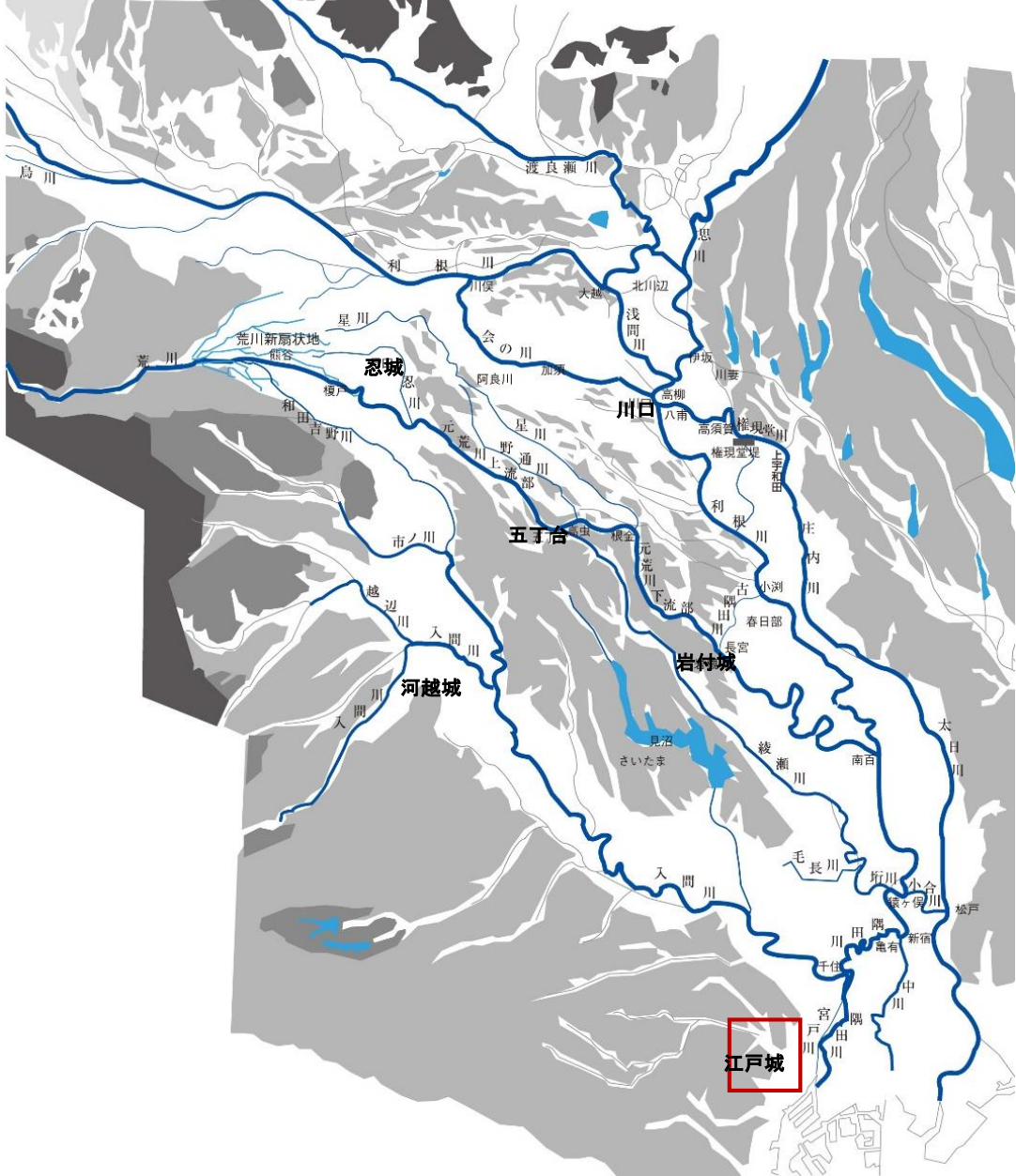
戦国時代 土木技術高まる

武蔵国の水田開発は壅田&武
闘集団(武士)の働きで、中世
半ばには約15,000haに及んだ。
中世約400年間は全国的にも
水田開発が進み、84,000haほ
ど増加。
武蔵国はその1/5を占める。

「大宝律令」国郡制定時の利根川と荒川



江戸間近の頃の利根川と荒川



続きは
六月二八日
↓